

●コロンビアのデイネールさんとの打ち合わせ(6日)

今回のサイドイベントにコロンビアから参加してくれることになったデイネール・アポンテさんは、スペイン語しか話せないのので、お隣のブースで知り合ったコスタリカ JICA の小川さんに通訳をお願いして、コロンビアの米事情やサイドイベントでお願いしたいことなどを打ち合わせした。

コロンビアの農地の状況などを詳しく聞くなど、打ち合わせは夜の10時過ぎまで続いたが、サイドイベントの残り物の食べ物を集めて、食べながら打ち合わせをしたので、時間も食べ物も無駄なく使えた。

コロンビアでは、広大な土地をGPSを使って等高線に沿って畔を作り、水を張る方式のため、日本の田んぼのように細かく区切られていない。そのため、田んぼの大きさは地形の水平の大きさに比例するため、形も大きさもマチマチで、100ha～5000haのものまでであるという。

コロンビアの稲作のおよそ7割が雨水(天水)を使い、残り3割程度が灌漑用水を使っている。灌漑を使っているところでは二期作が可能となっている。

草原では年に2回ほど大きな氾濫が起きるので、その時に田植えをする。苗ではなく種を蒔く方法が採られている。6割は手で種を蒔き、4割はGPSを使って水平に機械で蒔く方法を使う。

ベネゼエラの工業地帯から国内法で禁止されているような強い農薬が簡単に手に入ってしまう。また、農薬の管理方法が徹底されていないため、空き容器を畑に放置、農薬の入っていた容器を洗って飲食用に使用するなど、ずさんな管理が問題となっている。

田んぼの生き物については、機械を導入するときと、野焼きをするときに、カメが死んでしまう他、渡り鳥が作物を食べるため、銃で撃ってしまうこともある。また、カピバラや牛などの侵入を防ぐために電流のフェンスで防御している。

コロンビアの農業は、地主と小作人とで方針を決めるが、先に紹介したような課題を解消するためにも、農業組合で田植え前に、環境配慮事項についてのアクション・プランを出してもらおうようにしている。今後は、環境配慮や農薬の取り扱いについてのルールを整備していきたいとのことである。



コロンビアのデイネールさんとの打ち合わせ

●エクスカージョン(7日)

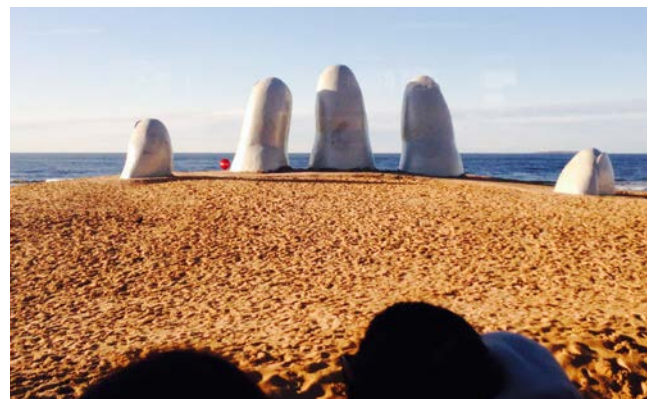
エクスカージョンは、8つのコースの中から選択して参加した。朝のコンラッドコンベンション側のロビーは大にぎわい。朝7時半に集合がかかったものの、結局私たちのバスが出発したのは8時半を過ぎていた。



朝のロビー。自分のツアー番号が呼ばれるのを待つ

呉地さんは「米コース」に参加し、ロチャからラスカノという町を巡った。

柏木さんと後藤は、となり町のサンカルロスのマルドナド・ストリーム湿地の「エコパーク」を選択した。エコパークは車だと15分で到着してしまうので、プンタデルエステの半島の中をバスで観光をしてから現場へ向かった。



朝の半島観光。プンタデルエステのビーチにある手のオブジェ

地元のNGO「アグアラ・ポペ(アライグマの意)」のメンバーがガイドとなり、要所要所で、専門家の先生が解説をするという形で案内が展開された。下流域に広がるパンパスの大地を歩く前にそこで見られるおおよそ270種類の一覧表が渡され、それを鳥の専門家の先生と一緒に確認していった。湿地に面したところに一つ観察用の小屋が用意しており、水鳥を近くで観察することができた。



アグアラ・ポペのガイドさんと鳥の専門家の先生



エコパークに展示してあるパネルより（ダーウィン・ガエル）

鳥の観察の他、カニの巣穴がたくさんあるところでは、カニの研究者からカニの解説を受け、石器の発掘をしているフィールドでは、考古学の先生からの説明があった。



砂地に巣穴を作るカニ。写真は死んでいる個体



マルドナド・エコパークで発掘された石器

フィールドには、牛と馬が放牧されている。草原を歩くというのは足の踏み場に躊躇するほどの糞を避けながら歩くことで、慎重に足場を選んで歩いた。ところどころ窪地を濡れずに渡れるようにウッドデッキが整備されていてその木が全て新品だったので、ガイドに聞いたところ、エコパークとして人を案内するのは今回初めての試みだったと知った。



牛と馬の落し物に注意しながらパンパスを歩く

ランチは地元の小さなレストランを貸し切り、肉や野菜をサイコロ状に切ったものを爪楊枝で刺して食べるというワイルドなものだった。

午後は市民動物園を訪れた。地元の動物のみを集めた動物園とする構想だが、現段階ではニホンザルや、エミューといった地元の生き物でない動物も陳列されていた。念願のカピバラが間近に見られたので非常に嬉しかった。

夕日が長い影を落とし始めた時間帯に、今度は上流域で植物の専門家とフィールドを歩いた。元来パンパスには低い植物しかなかったが、入植と共にフランスから松、オーストラリアからユーカリが導入されるとあっという間に拡がり、今では高い木が当たり前風景に入り込んでいる。



上流の川の様子

背丈は低いが、鳥や草食動物に食べられないよう、葉や茎に棘のある植物ほど実は鳥も人も好む美味しいものが多いようで、植物の生き残り戦略を感じた。残念ながら、季節は秋なので、どの植物についても棘の

部分しか見ることができなかった。逆に秋だから見られた面白い植物は、葉に虫が卵を産むとそれを植物の組織が包み込むように守って冬を越すという変な共生植物で、ブツブツのニキビのようなものが付いている不思議な植物だった。



虫が卵を産むと植物がそれを囲んで保護してくれるという不思議な植物

夜は開拓時代からの歴史を記した館で、乳製品、肉、酒と踊りの山盛りパーティが開かれた。ツアーを終えた組が順番に集まり、最後は全員で盛り上がった。

バスでコンラッドに戻れたのは夜の10時を過ぎていた。



夜の宴で踊り狂う人々

さて、明日はとうとう本番のサイドイベントだ。